放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表:　　2025年　10月

事業所名　　放課後等デイサービス　虹の郷

		チェック項目	実数			割合
			はい	いいえ	合計	はい / いいえ
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	0	6	100% 0%
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	6	0	6	100% 0%
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	0	6	100% 0%
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	0	6	100% 0%
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	0	6	100% 0%
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	0	6	100% 0%
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	6	100% 0%
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	6	100% 0%
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	0	6	100% 0%
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	0	6	100% 0%
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	0	6	100% 0%
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6	0	6	100% 0%
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	0	6	100% 0%
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	6	0	6	100% 0%
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	0	6	100% 0%
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0	6	100% 0%
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	0	6	100% 0%
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	0	6	100% 0%
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	0	6	100% 0%

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	0	6	100% 0%
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	0	6	100% 0%
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0	6	100% 0%
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0	6	100% 0%
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	6	0	6	100% 0%
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6	0	6	100% 0%
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	0	6	100% 0%
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	0	6	100% 0%
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6	0	6	100% 0%
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	0	6	100% 0%
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	0	6	100% 0%
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。	6	0	6	100% 0%
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6	0	6	100% 0%
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6	0	6	100% 0%
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0	6	100% 0%
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	0	6	100% 0%
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0	6	100% 0%
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0	6	100% 0%
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。	6	0	6	100% 0%

保護者への説明責任等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0	6	100% 0%
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	6	0	6	100% 0%
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0	6	100% 0%
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	0	6	100% 0%
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0	6	100% 0%
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0	6	100% 0%
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	0	6	100% 0%
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	0	6	100% 0%
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0	6	100% 0%
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	0	6	100% 0%
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	0	6	100% 0%
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	0	6	100% 0%
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	6	0	6	100% 0%
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	0	6	100% 0%
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0	6	100% 0%
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6	0	6	100% 0%

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：2025年　10月

事業所名放課後等デイサービス虹の郷

		チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	利用者が行いたい遊びや自分の空間を設けたい時には、学習室や相談室などを利用してスペースの確保をしている	スペースとしては広めになっているが、大きく動く遊びになってくると狭いと感じることがある
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	利用者数に合わせて、児童指導員の配置を考慮して支援にあたっている	送迎時間が重なり最低人員での見守りになった場合1対1の支援や危険行動が起きないような見守り体制に配慮していきたいと思う
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また	流れを時間・絵でホワイトボードに表示。ロッカーにも絵で表示し段差のない室内になっている	表示を頼りに片付けたりする子も居るが、意識付けをして表示なしでも片付けられるように支援していきたい。また個別に標示の仕方を変えて伝えていく
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども	自由時間と活動時間の切り替えをし	汚れた・こぼした時などにどうしたらいいのか分からずそのままの状態になっている時があるため、方法を知り生活に紐付けができるように支援していきたい
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環	子どもが落ち着ける場所として自由に選び区切られた部屋を使用してもらっている	空間的に音を遮ることのできない部屋の構造になっているため、大きな音が苦手な子にとって辛い面も見られるため、そういった子にはパーティションを使用することや落ち着けるものがあれば家人とも連携をしていく
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広	毎日行っているミーティングには職員みんなが参加し、不在の職員には後で伝えるようにしている	長期休み中はSNSを活用して共有。特性に配慮し、集団だけでなく個別にも対応できるよう内容に工夫を入れている。行動を予測しながら細かい打合せに心がけていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けて	年に1度は評価表にて意見を伺い、職員で共有・見直しして改善につなげている	その他、日々保護者と顔を合わせたときのコミュニケーションを大切にし、その時に得た意向は職員で共有。よりよい支援のために全員で考えていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につな	日々のミーティングの他に定期的に会議を行い、職員の意見を確認し話し合い改善につなげている	風通しの良い職場環境になるように心掛け、みんなの意見を取り入れながら良い支援につなげるように情報の共有をつづけている
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	保護者はもとより他者からの意見をいただいた時には職員間で共有し改善方法を検討している	見学に来てくださる方々などに評価されたことを日々の支援が良くなるようにつなげていきたい
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研	虐待防止研修をはじめ車内研修に参加したり、独自の研修も行い質を上げることを大切にしている。	全員参加でなくとも資質向上につながると感じた研修は、管理者から職員に参加を勧めている。研修報告書にて記録に残し振り返れるようにする。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	ホームページにて公開している。 ねらいに沿って個々にあった支援につとめている	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや	アセスメント用紙を元に、きめ細やかな聞き取りをおこなっている。	児童発達支援管理責任者から内容を伝え全員が共通理解しながら支援きるよう努めている。また家人や利用者の気持ちを織り込みながら計画の作成にあたっている
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任	日々のミーティングだけでなく会議又は気づいた点などはその場で職員同士で共有している	支援前、また支援後に再度子どもたちにとって利益となるように話し合いを進め関わっていく
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行	個別支援計画を確認しそれに沿った支援につなげている	作成時だけでなく、日々変わっていく子どもの行動に合わせた支援を心がけていく
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセ	室内に掲示等されているツールだけでなく、個々に合った伝え方を考え使用している	今までになっかったツールなどを使用して、個々の理解ができるできないに関して共有し、さらに良くなるような意見を職員間で話し合い改善につなげていく
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放	本人・家族・地域への関わりなどを考えながら内容を検討し必要な項目の設定をしている	本人の支援に重点をおき、それだけでなく家族の支援またその先の成長に繋げられるような内容で検討し設定していく
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	どのような活動がいいか職員全員で意見を出し計画している	初めての経験に戸惑う子も多いため、繰り返し行うことも大切にしながら、子どもたちの姿に合わせて内容を変化・発展させていきたい
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	継続的に行うことを大切にしながらも、新しい活動を取り入れながら子どもたちが楽しく参加できるようにしている。	集団・運動・制作・感覚・地域交流等をねらいとして設定し色んな形の活動を計画していく
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後	集団活動の中でも個々に合わせて活動にしたり、その場の状況に合わせて支援にあたっている	型にはめるのではなく、子どもの思いに寄り添えるかたちでできる事を伸ばせる個別・集団を組合わせた支援をしていく

		チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	利用者が行いたい遊びや自分の空間を設けたい時には、学習室や相談室などを利用してスペースの確保をしている	スペースとしては広めになっているが、大きく動く遊びになってくると狭いと感じることがある
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内	その日予測される行動、リスクを前提に話し合いができている	活動・支援について共有しているが、具体的な個々への対応の確認していく必要がある
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の	平日は支援前に打ち合わせを行っている。すぐに共有すべきことはその日に伝えあい振り返りできている	特に学休日には、全員で揃って会議をする時間が少なくなってしまう。会議だけではなく気付いたことはすぐに報告・相談をしたり共有ノートに記したりすることで、共有漏れがないように努める
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげ	何かあったとき、振り返り、状況がわかるように記録に残している	利用者記録の記入が独りよがりになってしまわないよう、全員で情報を交わしながら書けるように徹底していく
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要	モニタリングで利用者の状況等共有している。また状況によっては期間を決めず見直しを行っている	支援会議からみんなが関わり、個々の成長を色んな観点から考え、計画作成を丁寧に行いたい。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わ	ガイドラインに沿って子どもたちが楽しめるような活動を組合わせて支援している	普段から読み直し、基本活動を軸に色々な活動で支援に繋げられるようにしたい
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をす	いくつかの選択肢を提案しながら、自分で選んで決められるように声がけ等をしている	職員の意見だけでなく、やってみたいこれならできるの思いを子どもたちが選んで成功体験につなげていけるよう支援していく
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に	管理者兼児童発達支援管理責任者が参加している。	必要な情報を全職員に伝達するよう心掛けている。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、	必要に応じて連絡が取れる体制になっている	施設内だけでは解決に至らない場合などは相談にのっていただくなどの連携し支援を行っていく
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻	毎月学校だよりの受取、送迎時に日々の変化を申し送りしていただくこと、トラブルについては状態に合わせて連絡を取っている。	送迎時だけでなく必要に応じて連携会議や電話連絡をすることで、より学校と連携した支援を図ることが出来る。さらに情報共有できるよう、学校との連絡を大切にしていきたい
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援	相談センターやサクランボ教室の先生の訪問見学を受けるなどし情報共有につとめている	初めての場所に戸惑うことがないよう、施設の情報や在籍している施設等との情報共有に努めたい
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	保護者に了承を得た上で情報の提供は行なう	現段階では対象者となる利用者がいないが、以前は行っており今後こう言った場合があった場合には対応していく
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。	飛騨圏域での研修に参加したり必要に応じて助言や情報共有を行っている	研修や情報共有したことをその場で終わることのないよう支援に活かしていく
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	児童館訪問、図書館に行く活動を取り入れている。	平日の活動での外出には時間的に難しい点もあるが、利用時間が長い時などに児童館などを利用するよう機会を設ける
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	地域での課題について検討できている。また幅広い視点から考える機会となっている	参加した時には、必要な情報は職員に伝え、地域の施設としての心構えができるように努めている
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	連絡帳や送迎時だけではなく、子どもの様子・変化等電話やメールも使って伝えるようにしている	今後も、安心して利用していただける居場所となるよう、保護者の方との意思疎通を重要視していく
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	研修としては行っていないが、個々に相談を受けながら子育てに関する助言を行っている。	郷カフェを開催しており、より多くの保護者様のご意見・ご相談を聞き取りたい。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	契約時等細かい所まで丁寧に伝えている。	不明なことがあればその都度説明する。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	契約時だけに限らず、必要に応じて電話やメール来所時にお話を伺い意向をお聞きしている	子どもや家族の意向を大切にし最善の利益になるように繋げて行けるよう対応する
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。	送迎時等に説明をさせていただき、同意をえている	細かな説明を心がけ同意していただけるように努める
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	子育ての悩みだけでなく、家族での困り事など必要に応じてお聞きし対応している	家族の困りごとなどに対しては事業所のみで解決に至らない場合などには関連機関との連携も取っていく

		チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	利用者が行いたい遊びや自分の空間を設けたい時には、学習室や相談室などを利用してスペースの確保をしている	スペースとしては広めになっているが、大きく動く遊びになってくると狭いと感じることがある
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保	父母会に活動を支援することはしていないが、郷カフェでの保護者交流の機会は設けている	郷カフェでは2地区で開催しており、参加が少ないこともあるため、声かけなどをしていく
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	その都度迅速に対応するように努めている。また上長への報告も行っている。	職員で話し合い同じことが起きないよう、安心して過ごせる場所にしていく
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、	会社HPにて活動内容の発信またかわら版・郷新聞などを発行して発信している	郷新聞では子どもたちの様子が分かりやすいような内容に鳴るよう心がけていきたい
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	書類に関しては施錠できる場所での保管やシュレッターでの情報削除、また毎月行動チェックリストでの確認も行っている	入社時に情報の漏洩がないよう誓約書をかわしまた会議等で職員に確を行っていく
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	決められたツールを使うだけでなくその場に合わせて目や耳からの情報が入りやすいように細かな説明や絵表示を行っている	にぎやかな場所での情報伝達が難しい場合もあるため、その場に合った支援の仕方を職員で共有していく
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	施設の見学などは常に受け入れはしている	招待はしていないが、地域資源を使っての夏祭りなどを行っている
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対	マニュアルは施設内の決められた場所に保管し、すぐに見られる位置で確認することができている	年に一度マニュアルを見直すことで、常に新しい対応ができるよう努めていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、	情報を集め計画の作成をし年に2回想定を変え非常災害に備えた訓練を行っている。	災害だけでなく感染症に対しても日頃の環境整備をしていく
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認してい	契約時に服薬や持病などの確認をしている	今現在対象となる利用はないが、今後そういった場合は対応していきたい
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされて	保護者から必要な対応について細かに教えて頂き全職員で共有する。	施設内には対象者はいないが送迎時に同乗する利用者もいるため職員で周知し対応出来るよう徹底していく
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措	室内の危険箇所がないかの点検や補修に配慮しており、社内研修にも救命等の研修が織り込まれている。	日々子どもたちと過ごす中で室内や車内での点検や保守に気をくばっていく
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に	災害などの緊急時の対応などについては家族に事前に周知している	直ぐに連絡が取りにくい家族に対しては方法や手段などを確認していく
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討を	日々記録として残し、職員間で共有し話し合い検討している	その場だけで終わることなく振り返り、職員が同じ対応できるようにしていく
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をし	虐待防止研修を全社員・初任者・中間層などにわけて外部講師の先生の指導のもと行っている	入社時に情報の漏洩がないよう誓約書をかわしまた会議等で注意喚起をしていく
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し	現時点では対象となる利用者はいない	対象となる利用者がいた場合には、保護者了解のもと同意書や計画に記載していく